

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式9)

氏名	浜谷 小百合	職名	准教授	学位	博士 (人間環境科学)
----	--------	----	-----	----	-------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
栄養教育・食育	食教育、学童期、QOL (Quality of Life)

研 究 課 題
1. 小学校児童の健康関連 QOL と食習慣、食環境に関する研究 2. 小学校児童の主食・主菜・副菜に関する食教育についての研究

担 当 授 業 科 目
※ 該当なし (2023 年度入職)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 】 ※ 該当なし (2023 年度入職)
授業科目名【 】
授業科目名【 】
授業科目名【 】

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養改善学会 食育学会 公衆衛生学会 健康支援学会		2015 年 5 月 2017 年 1 月 2020 年 11 月 2021 年 9 月

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
（著書）				
（学術論文） 「小学校 5 年生児童の食習慣、食環境および保護者の食習慣と 1 年後の児童 QOL との関連：縦断的検討」	共著	2022 年 9 月	日本健康支援学会 健康支援 第 24 巻第 2 号 157-165	児童が朝食を毎日食べる食習慣は、児童の 1 年後の QOL の高さの維持や向上と関連していることが示唆された。保護者の朝食を毎日食べる習慣は 1 年後の児童 QOL の高さの維持や向上と関連があり、児童の朝食を毎日食べる習慣との一致性があったことから児童の QOL 向上には保護者の食習慣が重要であることが再認識された。
（翻訳）				
（学会発表） 「小学 5 年生の食事の手伝い頻度と児童及び保護者の食習慣、共食状況との関連」	共著	2022 年 9 月	第 69 回 日本栄養改善学会学術総会（示説発表）	食事の手伝い頻度の多い児童は手伝い頻度の少ない児童に比べて朝・夕食時に共食していた者が有意に多かった。手伝い頻度の多い児童の保護者においては、朝食の食事バランスや子と料理をする頻度の多さと関連があったことから、児童の手伝い頻度の多さは好ましい家庭の食環境と関連している可能性が示唆された。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
※ 該当なし（2023 年度入職）